

空家等の利活用に対する取組状況(尾道市空家等活用促進モデル事業)

尾道市の空き家件数は、平成27年度に実施した市内全域の空家等を対象とした実態調査では、市内の空家等総数は7,353件でした。そのため、尾道市では、平成29年3月に「尾道市空家等対策計画」を策定し、各種空き家の利活用や除却についての事業に取り組んでいます。ここでは、平成30年度に空き家をまちづくりの資源として有効活用するため実施しました「空家等活用促進モデル事業」において空き家を改修し、地域活性化に取り組んでいる改修事例を紹介します。

平成30年度交付決定1:「株式会社 尾道柿園」

改修前



改修後



【提案の概要】

尾道市御調町菅の前前後地区の空家を、**地区特産の柿をテーマ**にした体験施設として改修し、年間を通じて観光客等呼び込む柿渋工房として活用し、地域おこしを図ります。

【事業の実績】

干し柿の仕込み時期に併せて、平成30年11月にプレオープンし、様々なメディアに取り上げられ、本オープン後も市外だけでなく海外からも観光客が訪れています。株式会社 尾道柿園では、「**地域おこしの拠点**」として、この施設をさらに活用していく予定です。

平成30年度交付決定2:「NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト」

改修前



改修後



【提案の概要】

尾道駅北口近くの元旅館の大広間(**茅葺の玄関、格子天井など地域資源としての建築的価値が高い箇所**)を、地域行事やイベント等にも使えるスペースとして改修し、地域に開かれた場として再生する。

【事業の実績】

プレオープンを経て、令和元年7月1日から正式にオープンしました。幅広い年齢層の利用者が尾道の歴史文化を感じることのできる「**交流拠点**」として、地元小学校や尾道市立大学と連携したイベントの開催や市外からの合宿の受け入れなど多目的な利用を計画しています。